



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3614 号 2017.4.23 発行



通う高校ないなら作る 読売新聞 2017年04月23日  
真新しい教室でほほ笑む山田さん。生徒はノートパソコンで勉強する  
(生駒市で)

◇「同じ悩み持つ人の力に」 発達障害の娘の母・山田さん  
発達障害の長女（15）が進学できる高校がない―。探し続けた末、生駒市あすか台の山田慶子さん（49）は今月、自宅近くに通信制高校を開いた。新入生は長女と、同じような障害を持つ男子。入学式を21日に開き、山田さんは「ずっと娘の進路で悩んできた。同じような悩みを持つ人の力になれば」と、万感の思いで涙ぐんだ。（一円正美）

高校は、同市真弓南のビル2階に開いた「明蓬館高校SNEC奈良・生駒校輝望高等学院」。生徒は週1～4回のペースで通い、ノートパソコンを通して国語や数学の授業を受け、レポートを提出する。福岡県にある本校への登校も経て、高校卒業の資格が得られる。障害のある子ども（6～18歳）が放課後に滞在できるデイサービスも併設している。

長女は3歳の頃、誕生会で泣きわめくパニックを起こした。その後も会話がかみ合わなくなることもあり、幼稚園の時、発達障害と診断された。

小中学とも普通校の支援学級に進学。中学の途中で、知的な遅れはないと診断が変わった。特別支援学校には進めない一方で、これまでの授業内容は一般の生徒と違ったため、普通高校へ進学するのに必要な内申書は出せないと言われた。

通信制高校に進むしかないと考え、全国の10校以上に入学を打診したが、発達障害と告げると、相次いで断られた。2015年9月、通信教育で全国展開する明蓬館高校が、発達障害の子どもを受け入れていると知った。

かねて、障害のある子どもが集うデイサービス施設を開きたいと考えていた山田さん。「いっそ、同じ悩みのある生徒が通えるようにしよう」と、同校のサテライト校を作ることを決意。学校とデイサービスの運営・管理会社「愛真美」を設立し、社長となった。

一筋縄ではいかなかった。教室などを設ける部屋を探したが、ビルオーナーらに断られ続け、中には「障害者が出入りすると価値が下がる」「他のテナントの迷惑になるから」などと心ない言葉を告げられた。探し始めて1年半後の今年2月、隣り合わせた2室を確保し、ぎりぎりでも開校・開所にこぎ着けた。

21日の入学式。障害を持つ息子がいる小紫雅史市長も駆け付けてくれ、「素晴らしい教育の場が実現して感動した」と喜んだ。明蓬館高の日野公三校長は「君には君らしく生きていく自由がある」と、2人の生徒を祝福した。

「どんな子どもでも、必ず得意なことがある」と山田さんは信じている。「娘はコツコツと続けることが好き。将来は技術職がいいんじゃないかと思う。卒業生の就労支援もできる学校にしたい」と、夢を膨らませる。問い合わせは同校（0743・89・1777）。

◆発達障害 対人関係を築くのが不得意、読み書きや計算が苦手、衝動的な行動を起こしがちななどの特性がある。脳機能障害が原因とされている。

## 知的障害者をめぐる主な出来事

施設法・国立のぞみの園理事長ら専門家や厚生労働省などへの取材をもとに作成

施設法の源流

施設法の体系が整う

大規模施設の増加

施設から地域へ

地域移行の流れが加速

在宅の知的障害者は増加している

- 1891年 被災孤児の救済のため石井亮一が創設した「孤女学院」(現・滝乃川学園=東京都)で知的障害児を保護、教育
- 1946 知的障害児施設は全国30カ所近くに
- 1948 児童福祉法施行。「精神薄弱児施設」を規定
- 1960 精神薄弱者福祉法(99年から知的障害者福祉法)施行。「精神薄弱老健施設」を規定。児童から成人に引き継ぐ施設体系が整う
- 1963 重症心身障害児施設「第一びわこ学園」(現・びわこ学園医療福祉センター=草津=滋賀県)開園



- 1965 厚相(現・厚労相)の私的諮問機関が重症心身障害者らを長期収容させ社会生活を営む国立コロニー(総合施設)構想をまとめる
- 1968 愛知県心身障害者コロニー開所
- 1970 大阪府立金剛コロニー開所。都道府県によるコロニーブームが起る
- 1971 定員550人の国立コロニーのぞみの園(現・国立のぞみの園=群馬県)が開所
- 1972 障害者やその家族らから「地域社会から隔離されている」との批判が起る



- 1981 厚生白書がコロニーについて「忍びな遠隔地に設置されがちで、地域社会から距離を置いてしまう傾向にある」と指摘
- 同年 国際障害者年。地域で普通の生活を営むのが当然とする「ノーマライゼーション」の考え方が広がる
- 1989 少人数の障害者が一般の住居で暮らすグループホームが制度化
- 1993 厚生省児童家庭局長が施設入所者の地域生活への移行を促進するよう自治体に求める通知
- 1995 政府が障害者プランを決定。障害者が地域で生活できる住まいやサービスの体制確立を打ち出し、グループホームや施設の目標値を設定
- 1996 実際の事件を素材に知的障害がある若者たちを描いたテレビドラマ「聖者の行進」が話題に



- 2002 障害者基本計画で入所施設について「地域の実情を踏まえ、真に必要なものに限定する」と記載
- 同年 宮城県福祉事業団(当時)が「鉛形コロニー」の解体宣言
- 2003 厚生省が国立のぞみの園の入所者を07年度までに3~4割地域移行する目標を設定
- 同年 障害者サービスの利用が行政による措置から契約制度へ。施設の選所や地域生活も自ら選択できるように
- 2004 長野県が「西駒郷」から250人程度を07年度までに地域移行する構想を発表
- 2006 障害者自立支援法施行。障害福祉計画の基本指針で国が施設入所者の削減、地域生活移行者数の目標値を掲げる
- 2016 改正障害者総合支援法で一人暮らしを支援するサービスを創設
- 同年 相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が刺殺される



## 施設と地域、知的障害者が暮らす場は 共生社会への課題



森本美紀、久永隆一、北村有樹子 朝日新聞 2017年4月23日  
障害者施設「にじょう」の一室。くつろぎながらお気に入りの歌謡曲のCDを聴く73歳の男性(左)に、職員が寄り添う=大阪府富田林市  
人里離れた山あいにある施設に集団で生活する

障害者——。昨年7月に相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件は、こうした実像を浮き彫りにした。障害者が暮らす場を施設から地域へ移す流れは、どうなっているのか。

大阪府南部にある富田林市の近鉄富田林駅から自動車でも20分ほど走ると、金剛山ののぞむ山林に囲まれた広大な敷地が広がる。面積は約82万平方メートル。東京ディズニーランドの1・6倍にあたる。



敷地内に点在する7棟の施設に、42人の子どもを含む408人の知的障害者らが暮らしている。職員が「最寄りのコンビニまで約3キロ」と言う場所にあるのが、「こんごう福祉センター」だ。

3月末、敷地の大半を占める居住区域である「大阪府立金剛コロニー」が閉鎖された。代わりに今年1日、コロニーを運営してきた大阪府障害者福祉事業団が、介護の必要性の高い高齢者に対応した施設「にじょう」を60人の定員で開所した。48人はコロニーから移り、地域での生活が難しくなった高齢の障害者も新たに入所してきた。

昼下がり、「にじょう」の一室から高倉健の「唐獅子牡丹（ぼたん）」など1960～70年代の流行歌が聞こえてきた。昭和歌謡が好きな男性（73）が集めたCDだ。

男性には知的障害がある。若い頃は自動車やねじの工場で働いていたが、78年、34歳の時に失業した。それを機に、両親に代わって面倒をみていた親類が金剛コロニーへの入所を依頼。それ以来、39年にわたって暮らしている。

「これな、妹と住んでた家やねん」。男性は壁に貼られた絵を指さした。平屋建ての建物と2人の人物が描かれている。ただ、今は「ここがええ」という。

#### ■高齢者ら、施設を離れない

金剛コロニーは大阪府吹田市で万博が開かれた70年に開所され、当時は定員850人で国内最大規模。「北の万博、南のコロニー」と呼ぶ人もいた。

介護を担う家族の負担を解消し、「親亡き後」も子の安心した暮らしを願う親の思いに応えるのがコロニーだった。70年代には都道府県が各地に作り、全国でコロニーブームが起きた。

だが、地域から隔離される施設のあり方への疑問はあった。81年の国際障害者年を機に障害者も地域で暮らす「ノーマライゼーション」の考えが広がると、「施設から地域へ」という動きが出てきた。

大阪) 障害者プロレス、熱戦に歓声 生野、観客200人 朝日新聞 2017年4月23日  
ハンマーシャーク芹田(上)の攻撃に耐える愛人=大阪市生野区の生野カトリック教会

福岡市の障害者プロレス団体「FORCE（フォース）」の大阪大会が22日、大阪市生野区の生野カトリック教会であった。200人を超す観客が押し寄せ、障害のあるレスラーたちの熱戦に歓声を上げた。

FORCEや他の障害者プロレス団体のほか、ビリーケン・キッド、タコヤキーダーら地元でおなじみのプロレスラーも参戦した。障害者は障害者と試合する形式で、四肢まひのハンマーシャーク芹田選手が、同じく手足が不自由な愛人（ラマン）選手に「起きろコラ！」と怒鳴りながら頭突きで向かっていく様子に、観客から熱い拍手が送られた。

大会は、大阪に障害者プロレス団体を設立することをめざして開催された。FORCE代表の永野明さん（41）は「ノリのよい観客が多いのはさすが大阪。大阪でも団体が立ち上がるよう、これからも一緒に努力する」と話した。（山根久美子）



東京五輪元聖火ランナーと障害者ら交流 大津でウォーキング

中日新聞 2017年4月23日

ウォーキングに出発する渡辺さん（右から3人目）ら参加者たち＝大津市の大津湖岸なぎさ公園で



一九六四年の東京五輪で聖火ランナーを務めた人と、一般の市民が五輪の思い出を語り合って歩く「びわ湖ユニバーサルウォーキング大会」が二十二日、大津市の大津湖岸なぎさ公園であった。車いすや白杖（じょう）を使う障害者も含めた百七十人が交流を深めた。

三年後の東京五輪・パラリンピックに向け、県内の元聖火ランナーらによる実行委員会が初開催。元ランナー十一人に、東京五輪のレスリング金メダリスト、渡辺長武（おさむ）さん（76）もゲストに加わり、二キロ、四キロの二コースに班ごとに分か

れ、ゆっくりと歩いた。

甲賀市の会社員吉田弘紀さん（41）は、長男悠希君（3つ）、次男陽登（はると）君（1つ）と参加。「子どもたちにスポーツをさせたくなった。障害者とも気軽に話せて、身近に感じた」と話していた。

来る東京五輪を誰もが楽しめる大会にしようと企画。同様の実行委がほかに二カ所あり、全国での行事開催を目指している。

聖火リレーで旧瀬田町内を走った近藤一男実行委員長（70）は、当時のユニホーム姿でトーチを持って参加。出発前には東京五輪の入場行進曲の演奏や、声まねによる実況放送の再現もあり、雰囲気を出した。（野瀬井寛）

### 三鷹・調布の福祉作業所が合同で出店 クッキーやケーキ自信作「菓子フェスタ」

東京新聞 2017年4月23日

試食をしながらクッキーを選ぶ来場者＝三鷹市下連雀で

おいしい手作り菓子はいかがー。三鷹市などの障害者福祉施設が合同で自主製作のクッキーやケーキ、ラスクなどを販売する第十回「菓子フェスタ」が二十二日、同市下連雀七のJCBカードセンターの広場で開かれた。たくさんの家族連れが訪れ、買い物を楽しんだ。（鈴木貴彦）

出店したのは三鷹市九カ所、調布市一カ所の福祉施設。そこで働く障害者や職員がエプロン姿で

「いらっしゃいませ」などと接客した。「三鷹ひまわり第三共同作業所」や「工房 時」など五団体がクッキーやパウンドケーキを販売。「わたしたちのいえ かごめかごめ」は太宰治人形焼きを、「ワークショップハーモニー」は昼食用に菓子パンやゆでたてのソーセージ類を用意した。

クッキー類は試食もでき、来場者はいろいろな味を楽しみながら菓子を選んだ。紅茶とチョコレート味のクッキーを買った三鷹市の会社員高橋美沙さん（36）は「安くておいしいので驚いた。機会を見つけてまた買いたい」と笑顔を見せた。

会場では陶器や木工、布製品も販売されたほか、ボランティアによるあめ細工や似顔絵、バルーンアートなどもあり、子どもたちの行列ができていた。

一回目から運営に参加しているNPO法人「三鷹はなの会」事務局長の松崎伸一さん（61）は「この十年で商品のレベルがかなりアップした。各施設との連携を深めて、販売機会をもっと増やしたい」と話した。



**来春に同時改定 医療と介護、連携強化へ 在宅で「みとり」促進**

毎日新聞 2017年4月23日

公的な医療保険と介護保険のサービス価格である診療・介護報酬が、2018年4月に同時改定される。政府は、高齢者が医療と介護で切れ目ないサービスを受けられる体制を目指すと同時に、効率化によってコストも抑制したい考えだ。今回の改定のポイントをまとめた。【細川貴代、阿部亮介】

3月3日の衆院厚生労働委員会で、厚労省の鈴木康裕保険局長は「残された期間を考えると今回の同時改定は非常に重要」と述べた。「残された期間」とは、高齢者が急増する25年までの時間を指す。

**医療・介護同時改定の主な検討項目**

医療	連携	介護
<ul style="list-style-type: none"> <li>「かかりつけ医」のさらなる普及</li> <li>薬価制度の抜本改革</li> <li>診療報酬の決定に「費用対効果」の視点を導入</li> <li>ICTやAIを用いた診断や治療支援の評価を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護施設や在宅でのみとりの促進</li> <li>切れ目ないリハビリの提供</li> <li>入退院時にケアマネジャーと情報共有を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活援助サービスの報酬引き下げとスタッフの資格要件の緩和</li> <li>新設される介護医療院の報酬設定</li> </ul>
中央社会保険医療協議会		社会保障審議会

**輝け男性看護師長 別府整肢園の大門さん**

大分合同新聞 2017年4月23日

**別府整肢園の入所者となごやかに話す男性看護師長の大門健二さん**



別府市鶴見の医療型障害児入所施設・療養介護施設「別府整肢園」に今春、男性の看護師長が誕生した。1995年から同園に看護師として勤務している大門健二さん（47）。同園で男性の看護師長は92年以来、2人目。

大門さんは日出町出身。先天性心疾患だったが、1歳の時に手術で完治したという。高校時代に進路を決める際、病院事務をしていた姉から「看護師がいいのでは」と助言され、この道に。

「男性も看護師をできるなら、いいなと思った。幼少期に病院通いをし、違和感はなかった」と振り返る。高校卒業後は別府市内の病院で看護助手として働きながら、90年に准看護師、94年に看護師の資格を取得した。

同園では現在、看護師29人（男性4人、女性25人）が3交代制で働き、入所者約40人を看護する。大門さんは看護師長として、全体的な管理や病棟の運営などを行う。

同園は今秋で創立60周年を迎える。「身の引き締まる思い。まずは利用者や家族の思いを理解することが大切。病棟の雰囲気さがさらに良くなるように、力を尽くしたい」と目を輝かせた。

**介護職員の高齢者虐待、最多9件 27年度の静岡**

産経新聞 2017年4月23日

県が発表した平成27年度の県内の高齢者虐待件数によると、特別養護老人ホームなどの介護施設の職員による虐待は前年度比1件増の9件で、調査を開始した18年度以降で最多だった。虐待を行った職員は11人で、このうち7人は勤続年数が3年以内と短く、県では施設での研修の不徹底などが虐待につながったとみている。

9件の被害者は70～90代の男女計12人で、いずれも認知症を患っていた。虐待の内訳（重複を含む）は、手をたたくなどの身体的虐待が5件▽無視などの心理的虐待が4件▽介護放棄が1件▽性的虐待が1件。県はほとんどのケースで施設職員のストレスが原因になっているとみており、「(研修の不徹底などによる)認知症への理解度不足が虐待につながっている」と分析している。

高齢化の進展で県内でも介護ビジネスに新規参入する事業者が増加する中、職員の教育が追いついていない現状が浮き彫りになった形だ。

一方、全体の虐待件数は403件で、前年度から43件減った。このうち、家族や親族による虐待は前年度比44件減の394件。内訳（重複を含む）は身体的虐待が268人で最も多く、心理的虐待の187人、介護放棄の109人がこれに続いている。

家族や親族による虐待で虐待者の内訳は息子197人、夫74人、娘57人などとなっている。

### 成田で光る 描いた夢 自閉症の画家 都内の久保さん個展

東京新聞 2017年4月23日



自身の作品の前に立つ久保貴寛さん＝成田市で

自閉症で知的障害がある画家、久保貴寛さん（46）＝東京都豊島区巢鴨＝の個展が、成田市東町の成田ユニバーサル美術館で開かれている。専門学校などで絵を学び、鮮やかな色づかひの作品は企業のカレンダーや雑誌の表紙にも使われた。久保さんは「夢に向かって描き続けたい」と語る。（神谷円香）

二歳ごろから柔らかいタッチの絵を描くようになった久保さんは、高校卒業後、保育の専門学校・日本児童教育専門学校（東京都新宿区）で絵本づくりを学んだ。一九九二年からは、障害者のための文化事業を行う公益財団法人「日本チャリティ協会」（同区）が開く絵の教室に月二回、通う。メルヘンチックな風景画が得意で、「明るい配色や立体感を大切にしている」と言う。遠近法も使いこなす。

何百枚と描きためた絵を自宅に保管。個展は二回目で、海外の旅行先の風景画など、えりすぐりの三十七点を展示している。

これまで現代童画展や国民文化祭で入選を重ね、障害者の絵を企業に紹介する「アートビリティ」という活動を通し、作品は企業のカレンダーや通販雑誌の表紙に採用された。

アートビリティは、「障害のある人にも絵で仕事を」と社会福祉法人東京コロニー（東京都中野区）が八六年に始め、現在約二百人、約五千点の登録作品がある。

商品にできるデザインかどうか登録基準で、広告業界に詳しいグラフィックデザイナーらによる審査会の通過率は10～20%と厳しい。絵が採用されると契約額の60%が本人に入る。

久保さんの作品はこれまで三十三点が登録され、二〇〇二年には「独自の路線を歩み、コンセプトが明確」な作家に与えられる「アートビリティ大賞・日立キャピタル特別賞」を受けた。事務局の中島倫子さん（55）は「登録作品は個性もさまざま。今は、障害の有無にかかわらず良い物は良いと言えるようになっている。障害者のアートを気兼ねなく楽しむ土壌がもっと育てばいい」と、個性が光る作家の活躍を期待する。個展は五月十四日までで、入場料五百円。月、火曜休館。問い合わせは同美術館＝電0476（85）6655＝へ。

### 障害児・者の発達、就労支援 磐田に一体型施設完成

静岡新聞 2017年4月23日

聖隷福祉事業団は22日、磐田市上岡田に建設していた障害者総合支援施設「聖隷びゅあセンター磐田」の完成式典を同所で開いた。障害児の発達支援と障害者の就労支援の主に二つの機能を持つ通所施設で、乳幼児から成人までを一貫支援する。同様の一体型施設は静岡県内初。10日から運営を始めている。



完成した聖隷びゅあセンター磐田＝磐田市上岡田  
光や音の刺激でリラックスする空間を見学す



#### 出席者

児童発達支援施設は延べ床面積743平方メートルで、乳幼児から中学生までが日常生活での基本的な動作や集団での適応訓練を行う。保育所と放課後児童クラブの役割の2事業所を併設。静かな音や柔らかい光で五感を刺激し、心を落ち着かせる活動に取り組むスペースも整備した。

就労支援施設は延べ床面積784平方メートル。高校生以上が対象で、一般企業への就職や生活面の充実を目指し訓練する。パン製造やクリーニング作業を行う事業所を置いた。

両施設ともいずれも鉄骨造りの移動しやすい平屋建てで、窓を多くし明るく開放的な雰囲気にした。

同市幹部らが出席した式典で山本敏博理事長は「地域の期待以上にまい進し、障害者も健常者も暮らしやすい社会をつくりたい」と意欲を述べた。

市は市急患センター北側の用地を無償貸与するほか、建設費の一部を補助するなど、施設整備を支援した

#### MR技術で歯科手術 ソフトバンクなどが開発



NHK ニュース 2017年4月21日  
現実の風景にコンピューターが作り出した仮想世界を重ねるMR＝複合現実と呼ばれる技術を使って歯科手術を支援するシステムを大手通信会社などが開発しました。

MR＝複合現実とは、現実の風景にコンピューターによる3Dの映像を重ねて表示する最先端の技術で、SF映画のような映像を作り出すことができます。

この技術を使って通信大手のソフトバンクグループと大阪の医療機器メーカー、モリタが歯科手術を支援するシステムを共同開発しました。

歯科医師が専用のゴーグルを装着すると、目の前にいる患者の歯に、あらかじめ撮った本人の神経や骨、血管などのコンピューター映像が重ねて表示されます。歯科医師は、ゴーグルを装着したままで、実際は見ることができない神経などの映像を参考にしながら、手術を進めることができる仕組みです。

また、ゴーグルには手の動きを感知するセンサーが搭載され、手ぶりによってカルテを呼び出したり、映像を拡大したりすることもできます。

このシステムは、再来年には歯科医師の研修用にまず導入し、その後、手術での実用化を目指すということです。

開発に当たったソフトバンクグループの勝本淳之さんは「MRの市場はまだこれからだが、拡大が期待される分野で医療以外にも応用が期待される」と話していました。

## 複合現実とは

MRは英語のミックスド・リアリティー＝複合現実の略語で、現実世界と仮想世界を融合させた映像を作り出す技術です。

SF映画に登場するホログラムのような3D映像が特徴です。MRの呼び名に似た技術では、VR＝仮想現実と、AR＝拡張現実があります。

VRは、去年、ソニーが家庭用ゲーム機の機器として発売しましたが、映像はコンピューターが作り出したものが基本で、ゴーグル型の端末を装着すると周囲にある現実の風景からは遮断されます。

ARは、現実の風景にコンピューターによる画像を重ね合わせる特徴ではMRと同じですが、CG映像を手ぶりで操作することはできません。ARの技術は、去年、世界的なヒットとなったゲームアプリ、ポケモンGOで一躍、注目されました。

このVRとARのそれぞれの技術を発展させた形のMRは、医療の分野だけでなく、さまざまな分野での活用が期待されています。

マイクロソフトは、建設現場で作業員が設計図を確認しながら作業を行ったり、航空会社が航空機の操縦やエンジンの整備の訓練で活用したりといった形ですでに実用化しています。

導入した新潟県の建設会社、小柳建設の小柳卓蔵社長は「建設業界は担い手が不足し、熟練の技能者も減っている。MRで現場の負担を減らしたい」と話していました。日本マイクロソフトの平野拓也社長は「MRは現実世界と合わせることで肌感覚で立体映像が見えるので医療や教育など応用例がどんどん出てくる」と話していました。

## 絵本作家 エリック・カールさんの作品展 NHK ニュース 2017年4月23日



「はらぺこあおむし」をはじめ、色彩豊かな絵本作家として知られるエリック・カールさんの原画などを紹介する展示会が、東京・世田谷区で開かれています。

エリック・カールさんはアメリカの絵本作家で、世界的なベストセラーとなった「はらぺこあおむし」など、色紙を切り貼りして作った独創的な作品で知られていて、会場には絵本の原画など、およそ160点が展示されて

います。

このうち、大きな羽を広げて飛び立つチョウの原画は、羽の模様を赤や緑などを使って色彩豊かに描いていて、「色の魔術師」とも呼ばれたエリック・カールさんの作品の特徴が見て取れます。

また、さやいんげんを食べる愛らしいヤマアラシの姿を描いた作品は、針の一本一本まで繊細に表現しています。

絵本好きの3歳の娘と訪れた母親は「細かく切り貼りしながら描かれた作品のタッチがよく伝わってきました」と話していました。

この展示会は世田谷美術館で7月2日まで開かれています。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行